

I-A-15

高齢者の急性胃粘膜病変（AGML）に対する
柴胡桂枝湯の有用性と再発予防

札幌東和病院

○水島宣昭、池下照彦

目的・胃潰瘍治療における漢方方剤には、四逆散、四君子湯をはじめとして、その有効性が認められてはきたが、柴胡桂枝湯については動物実験、臨床面で前二者と比べ、いまだ有意な効果は認められていない。以前から筆者らは高齢者のAGMLに対しH₂ ブロッカーは使用せずに、柴胡桂枝湯単独でむしろより以上の成績を納めていた。そこでこの度さらに症例を増やし治療効果、再発予防に対しても検討を加えた結果、その有用性が確められたので報告する。

方法・対象患者はいずれも持病（たとえば拘束性換気障害、パーキンソン症候群、気管枝喘息など）を持った上に、精神的ストレスにより発症したと思われるAGMLの入院患者7名（男3名、女4名）で平均年齢は76才。方剤は柴胡桂枝湯（ツムラ漢方製剤エキス顆粒）1回2.5g 1日3回服用。治癒判定は、種々の自覚症状の消失、胃内視鏡検査による出血、潰瘍の消失を4週、8週、12週で確認し、併せて再発予防についても、その有用性を1年～2年に亘って観察した。

結果・種々の自覚症ごとに情動不穏についても1週間で軽快し、2週間ではほぼ消失した。出血の消失は1カ月後では60%と低かった。が、2カ月後には85%に改善した。そして、全症例とも3カ月後には完全に潰瘍の消失が認められた。ただ、AGMLは治ったものの粘膜の正常化が遅れていた症例は（吻合部に多い）生検により過形成、腸上皮化皮であることが判った。

考察・7名の少数例ではあるが、3カ月後の胃内視鏡的累積治癒率はほぼ100%であったことは、患者が高齢であること、胃切除されていたために、いわゆる攻撃的因子が減少していたからであろう。が、出血に対しても特に止血剤も使わずに治ったことは方剤に含まれている各生薬の末梢血管拡張作用、微小循環改善作用、マイルドながら胃酸分泌抑制作用などが相乗的に、さらに人參の粘膜再生作用、肉芽形成作用がホメオステシスに働いたからであろう。以上のことから攻撃因子抑制作用よりはむしろ粘膜保護因子作用の方が優れていることが、1年～2年に亘った観察で再発が皆無であったことから理解できるのである。

結語・高齢者のAGMLに対し柴胡桂枝湯単独療法でも、H₂ ブロッカーに勝るとも劣らない有用性が判った。また、再発予防に関しても充分効果が期待できることが判かり、胃潰瘍に対する維持療法として柴胡桂枝湯の有効性が示唆された。